

アクモスグループの新鮮情報をお伝えするIRマガジン

ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ

Top Message

先端技術を活用し、成長に向けた挑戦を続ける

アクモスジャンクション

- アクモスグループ交流会
- 人を育てる「コミュニティ活動の取り組み」

アクモス 株式会社

証券コード：6888

2026
Vol.23



代表取締役会長 兼 CEO
飯島 秀幸

代表取締役社長 兼 COO
清川 明宏

先端技術を活用し、成長に向けた挑戦を続ける

2026年6月期のご報告 事業成長に向け投資を進めた1年

2026年6月期は、子会社の決算期変更で15か月分の損益連結を行ったこと（※1）や、2026年1月の新規子会社獲得などにより、ITソリューション事業が売上高前期比21.2%増となりました。官公庁案件を中心に堅調だったITインフラ事業の売上高も前期を27.3%上回り、両事業の

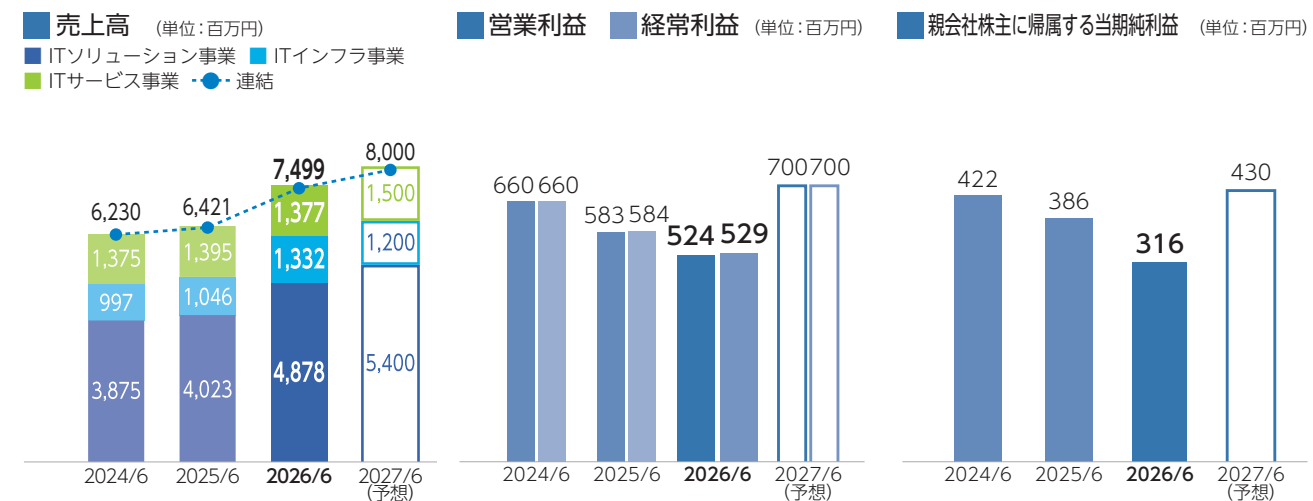
業績貢献により、2026年6月期の連結業績は、売上高7,499百万円（前期比16.8%増）となりました。一方で、人件費や機材の仕入額等の営業費用が増加したことやITサービス事業セグメントの第三者保守サービスが営業損失となったことにより、営業利益は524百万円（同10.2%減）、経常利益は529百万円（同9.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は316百万円（同18.0%減）となりました。経営指標として掲げ

た経常利益率は7.1%（前期9.1%）、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた方針に基づき、2028年6月期15%以上を目標に設定している株主資本利益率（ROE）は9.3%、株主資本コストは5.9%となりました。

主な取り組みとしては、変化する事業環境・人財需要を踏まえ、事業の成長に欠かせない優秀な技術者の確保と育成等の人財投資を進めました。その結果、当期末のグループ全体の従業員数は、前期末に対し56名増の546名（臨時従業員を含む雇用者数は77名増の639名）となりました。また、消防防災事業の受注拡大に伴い当社の消防防災オフィスを移転拡張したほか、

アクモスメディカルズ株式会社の本社事務所を移転し、事業拠点の拡充を目的とした設備投資を行いました。

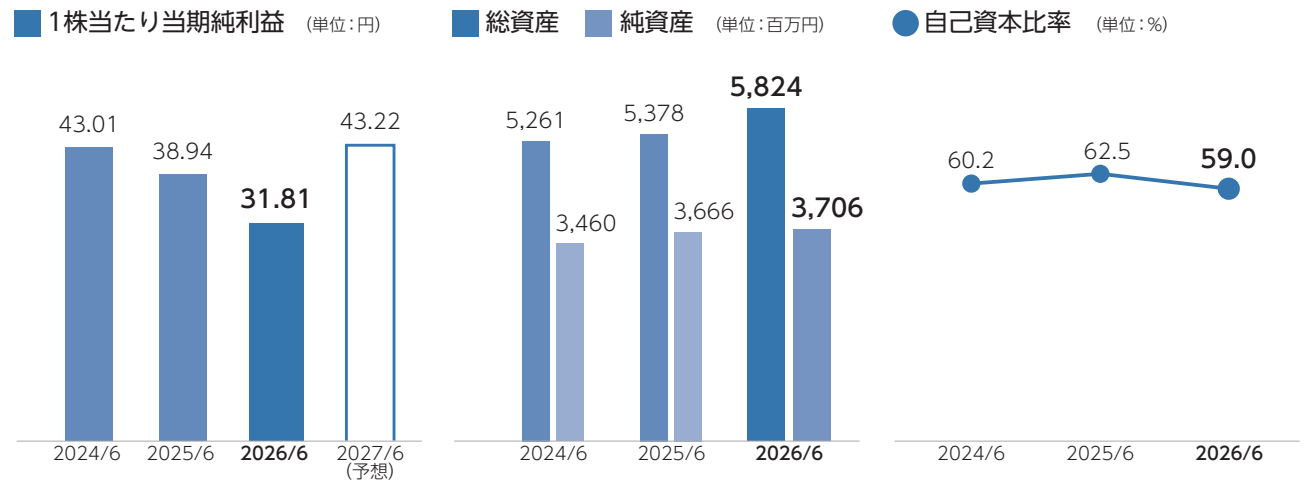
※1 株式会社プライムシステムデザインの決算期を3月から6月に変更し、当期は同社の15か月分の損益連結を行いました。



トップメッセージ

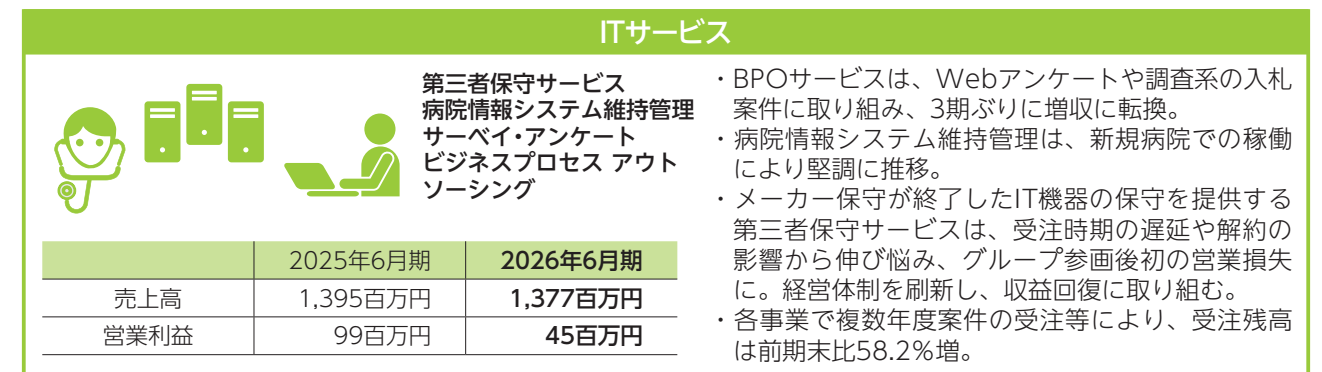
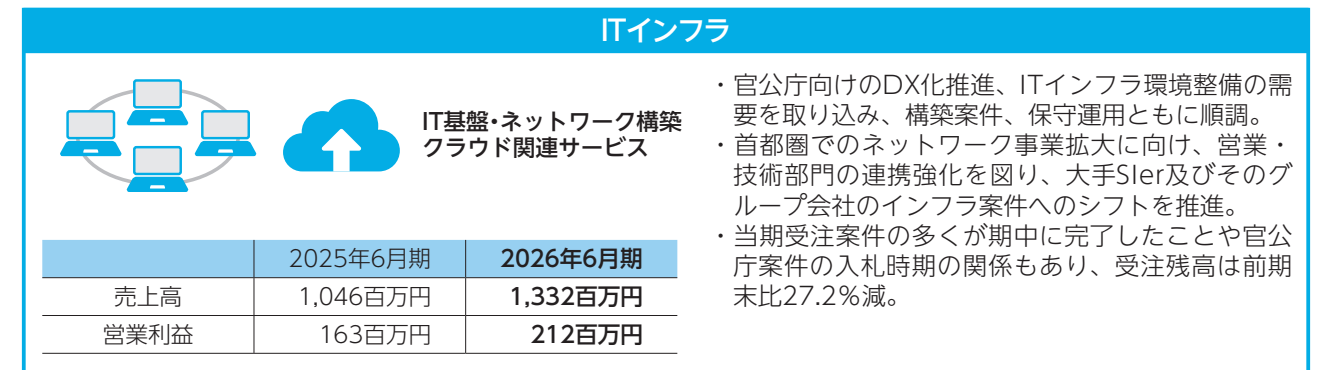
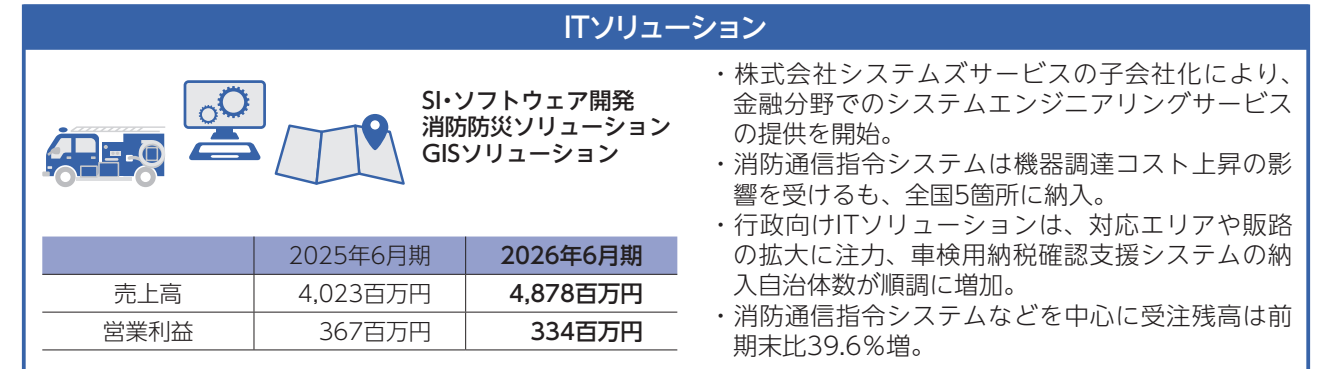
当社は、2025年8月5日に中期経営計画の最終年度を1年間延長し2028年6月期とする発表を行いました。その際に課題として掲げたトップラインの伸長については、首都圏でのM&Aを推進し、金融分野への事業領域拡大を目的として、2026年1月29日付で、株式会社システムズサービスの発行済み株式の100%を取得し完全子会社といたしました。なお、当社は、2026年10月1日をもって同社を消滅会社とする吸収合併を行う予定としております。もう一つの課

題である人財投資に伴う採用後の収益貢献時期については、当社新入社員のOJT実施部門への配属を一斉配属から業務選択に応じた履修内容を考慮した計画的な配属に変更し、収益貢献の時期の適正化を図っております。



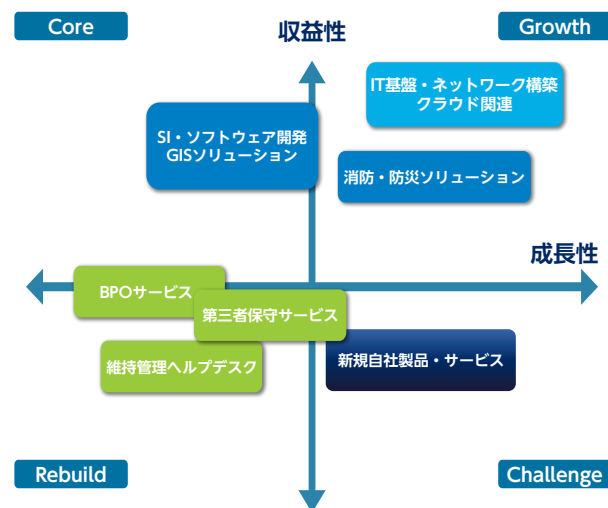
※自己資本比率=自己資本(純資産-新株予約権-非支配株主持分)/総資産

事業セグメント別の概況



中期経営計画の進捗と方向性 収益性を重視し、売上高目標到達を目指す

中期経営計画2028（2024/07-2028/06）の2年目となった2026年6月期は、Growth成長投資領域事業で開発体制を強化し、受注に向けた積極的な提案活動を推進いたしました。また、Core維持伸長領域では前述のとおり、M&Aにより新規子会社を獲得し、金融分野のSES事業を開始いたしました。しかしながら業績面では、売上増加に伴うコスト負担をカバーできないなどの理由で収益性が低下したこと、Rebuild改善領域における第三者保守サービスの立て直しが遅れたこと等により、利益目標は未達となりました。



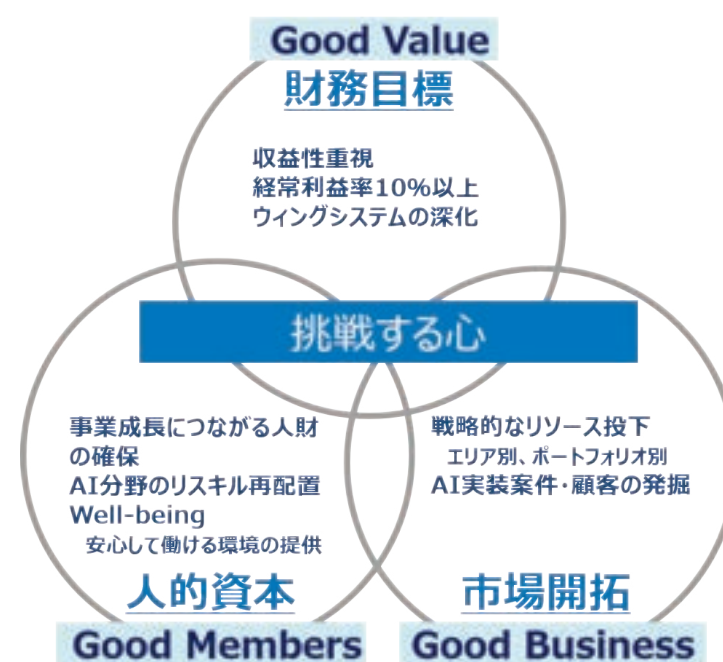
2027年6月期は、中期経営計画2028の後半の開始年度にあたりますが、引き続き、本計画のビジョン「Challenging Mind 社是“挑戦する心”をもって、事業の拡大と高付加価値化を実現し、新たな顧客を創造する」に基づき、事業戦略を推進してまいります。

後半2年間は収益性を重視し、時間当たり付加価値を指標とする部門別採算管理制度ウィングシステムの深化を図りながら、経常利益率10%以上を目指してまいります。なお、2028年6月期グループ売上高100億円目標に到達するためには、2026年6月実績比で25億円の増収が必要となります。そのため、収益性の高い事業へのシフト及び受注拡大を進め、各事業セグメントでの増収を目指します。また、引き続き首都圏地区でのM&Aを推進し、AI×ITにより未来価値を創造できる新規子会社の獲得を図ってまいります。

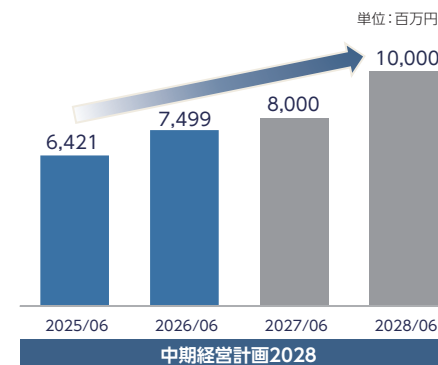
アコスグループ 中期経営計画2028（2024/07－2028/06）後半2年の方向性

中期経営計画2028の後半は、収益性重視で経常利益率10%以上を目指す。

2028年6月期グループ売上高100億円の目標到達に向け、各事業セグメントで増収を図り、首都圏でM&Aを推進。



売上高目標到達に向けた戦略



収益性、成長性の高い事業へのシフト、受注拡大

ITソリューション事業の増収率15%以上、ITインフラ事業の増収率20%以上、ITサービス事業の増収率5%以上を目標に、増収を目指す

首都圏でのM&A推進、新規子会社の獲得

AI活用を推進し、AI×ITにより未来価値を創造できるIT企業の獲得

2027年6月期の展望

AIを利活用し、成長に向けた挑戦を続ける

情報技術業界においては、AIを次の事業成長や付加価値向上につなげるべく各社様が取り組みを進めていますが、当社も例外ではありません。当社は、AI利活用基本ビジョンを定め、まず、グループの中核企業であるアクモス株式会社において、AI利活用をけん引するAIリーダーの育成に取り組めます。

収益性向上に向けては、第一にプロジェクト収益の適正化を図ってまいります。そして、業務プロセス変革、効率化のため、AI活用を進めていきます。事業戦略としては、事業エリア、顧客業種ごとの収益性、成長性に応じた、高付加価値モデルの実現に向けた取り組みを進めると同時に、AI実装、AI活用案件の獲得を推進してまいります。

アクモスグループAI利活用基本ビジョン

AIT & ∞

エイアイティ アンド インフィニティ

私たちは、未来価値を創造する

私たちが目指すのは、一人ひとりが、AI×IT人材として輝く未来です

AI-driven：AIを道具として使いこなし、新たな価値を生む

Industry-focused：官公庁・製造・金融などの業種・業務知識を持つ

Technology：私たちの確かなIT技術を最大限活用する

AI
判断・予測・効率化

×

ITスキル
開発力、構築力

×

**業種・業務
知識**

潜在力、将来性が広がる

潜在力∞

未来に限界を設けない

可能性∞

事業環境・テクノロジーとともに進化

進化∞

なお、当社は、2026年10月1日に株式会社システムズサービスを吸収合併する予定ですが、経営統合により業務効率化とお客様の多様なニーズに対応する体制を構築いたします。経済状況の先行きの不透明感、中東情勢や金利の変動リスク等から継続すると考えられますが、前述のとおり、情報通信事業領域においては今後、AI活用やDX化のさらなる需要が期待されます。以上の経営環境を踏まえ、2027年6月期の連結業績は、売上高8,000百万円（前期比6.7%増）、営業利益700百万円（同33.5%増）、経常利益700百万円（同32.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益430百万円（同35.9%増）を予想しております。経営指標につきましては、時間当たり付加価値4,100円（※2）、経常利益率8.8%、株主資本利益率（ROE）は12.2%を見込んでおります。

※2 時間当たり付加価値は以下のように定義しております。
(収入－労務費以外の経費)÷総稼働時間＝時間当たり付加価値

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、中期経営計画2028において、人財投資を中心に事業基盤の強化を目的とした投資を計画しており、一時的な理由による変動を避け、株主さまに対する安定的な配当を維持していく目的で、中期経営計画2028期間において累進配当を導入しております。この配当方針に基づき、2026年6月期の期末配当は当初計画通り、1株当たり25円（配当性向78.6%）とさせていただきます。

2027年6月期の期末配当は1株当たり25円（配当性向57.8%）を予定しております。変化の激しい事業環境のなか、当社はこれからも挑戦する心をもって成長と進化を目指してまいります。株主のみなさまには、引き続きご理解とご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)		
科 目	第34期 2025年6月30日	第35期 2026年6月30日
資産の部		
流動資産	4,587,275	4,814,483
固定資産	791,348	1,010,223
有形固定資産	280,969	287,870
無形固定資産	221,732	405,106
投資その他の資産	288,647	317,246
資産合計	5,378,624	5,824,706
負債の部		
流動負債	1,421,068	2,052,608
固定負債	290,583	65,270
負債合計	1,711,652	2,117,879
純資産の部		
株主資本	3,360,655	3,429,269
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,258,509	1,259,365
利益剰余金	1,436,564	1,504,323
自己株式	△27,668	△27,668
その他の包括利益累計額	2,583	8,810
非支配株主持分	303,732	268,746
純資産合計	3,666,971	3,706,827
負債純資産合計	5,378,624	5,824,706

Point 1

資産の部

資産は、前期末に比べ446百万円増加しています。

主な理由は、のれんの増加180百万円、現金及び預金の増加155百万円、商品の増加42百万円、仕掛品の増加27百万円の方、受取手形、売掛金及び契約資産の減少13百万円があったことによるものです。

Point 2

負債の部

負債は、前期末に比べ406百万円増加しています。

主な理由は、短期借入金の増加300百万円、未払金の増加92百万円、買掛金の増加40百万円の方、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の減少57百万円、未払法人税等の減少34百万円があったことによるものです。

Point 3

純資産の部

純資産は、前期末に比べ39百万円増加しています。

主な理由は、親会社株主に帰属する当期純利益316百万円の方、配当金の支払い248百万円があったことによるものです。

■ 連結損益計算書

(単位：千円)		
科 目	第34期 (自 2024年7月 1日 至 2025年6月30日)	第35期 (自 2025年7月 1日 至 2026年6月30日)
売上高	6,421,748	7,499,453
売上原価	4,113,341	5,093,701
売上総利益	2,308,406	2,405,752
販売費及び一般管理費	1,724,421	1,881,424
営業利益	583,984	524,327
営業外収益	7,066	13,553
営業外費用	6,055	8,599
経常利益	584,996	529,282
特別損失	1,334	4,515
税金等調整前当期純利益	583,661	524,767
法人税等	178,232	194,951
当期純利益	405,429	329,815
非支配株主に帰属する当期純利益	19,400	13,355
親会社株主に帰属する当期純利益	386,028	316,460

Point

連結損益計算書

株式会社プライムシステムデザインの決算期変更により当期は同社の15か月分の損益連結を行ったことや株式会社システムズサービスを獲得したことなどにより、ITソリューション事業は前期比で21.2%売上が伸びました。官公庁案件を中心に堅調だったITインフラ事業も前期比で27.3%上回る売上高となり、両事業の業績貢献により、売上高は7,499百万円（前期比16.8%増）となりました。

一方で、人件費や機材の仕入額等の営業費用が増加したことやITサービス事業セグメントの第三者保守サービスが営業損失となったことにより、当期の営業利益は524百万円（同10.2%減）、経常利益529百万円（同9.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は316百万円（同18.0%減）となりました。

■ 連結包括利益計算書

(単位：千円)		
科 目	第34期 (自 2024年7月 1日 至 2025年6月30日)	第35期 (自 2025年7月 1日 至 2026年6月30日)
当期純利益	405,429	329,815
その他の包括利益	395	6,227
包括利益	405,824	336,043
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	386,424	322,687
非支配株主に係る包括利益	19,400	13,355

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)		
科 目	第34期 (自 2024年7月 1日 至 2025年6月30日)	第35期 (自 2025年7月 1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	256,609	406,299
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,224	△ 199,529
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 382,398	△ 72,515
現金及び現金同等物の増減額	△ 139,012	134,254
現金及び現金同等物の期首残高	2,934,516	2,795,504
現金及び現金同等物の期末残高	2,795,504	2,929,759

Point

連結キャッシュ・フロー計算書

（営業活動によるキャッシュ・フロー）
法人税等の支払額245百万円、棚卸資産の増加70百万円があった一方、税金等調整前当期純利益524百万円、売上債権の減少102百万円、非資金項目である減価償却費54百万円があったことによるものです。（投資活動によるキャッシュ・フロー）
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出132百万円、有形固定資産の取得による支出46百万円、無形固定資産の取得による支出24百万円があった一方、保険の解約による収入34百万円があったことによるものです。（財務活動によるキャッシュ・フロー）
長期借入金の返済による支出76百万円、配当金の支払額247百万円があった一方、短期借入金の純増額300百万円があったことによるものです。

アクモス株式会社 アクモスグループ交流会

アクモスグループでは、グループ全体でより良い相乗効果を生み出すため、会社を超えたメンバー同士の交流を進めています。その一環として、各社の事業内容や強み、働く仲間の「人となり」を知ること、お互いの理解を深め、信頼関係を築くことを目的に「アクモスグループ交流会」を行いました。

テーマは「情報共有と交流促進」として、「管理」「営業」「技術・事業」の3部門で実施。それぞれの交流会では、各社の事業内容の発表とともに部門の特徴に合わせたワークショップを行い、参加者からも前向きな反響を得ることができました。今後も具体的なシナジーの創出に向け、グループ連携の取り組みを一層推進していきます。

参加者の声

「他社の事業について直接説明を聞くことで、より深く理解できた」
「それぞれの会社の背景を説明しながら議論を交わしたことで、お互いを知り、交流を深めるきっかけになった」
「事業内容が近い会社同士で、もっと具体的な協力について話し合いたい」



人を
育てる

アクモス株式会社 コミュニティ活動の取り組み

アクモスでは社員間の活発な交流を促すため、飲食を伴う会に限らず、運動・ゲーム・勉強会など、3人以上で実施する活動を「コミュニティ活動」と定義し、一定条件のもと、活動費用の一部を会社から補助しています。活動内容は女子会・ランチ会にはじまりボードゲーム、バドミントン、ヨガ、ユニークなところでは胃もたれクラブや、馬肉を食す会などさまざまです。

この活動は、会社から「やらされるだけ」の受動的なものとは異なり、社員一人一人が「自ら企画し・自ら行動する」という能動的な行動変容にも一役買っている効果があります。

この活動が導入されるまでは、飲み会などの飲食を伴う会にのみ会社補助が実施され、お酒の飲めない社員、運動や文化的な活動がしたい社員に対し、積極的な後押しができる仕組みがありませんでしたが、本活動への支援を通じて社員間のコミュニケーションが深まり、活性化にも効果が出ています。

今後も、当社で働く全社員が自発的で生き生きとした生活ができる活動・挑戦への支援を充実させていく予定です。



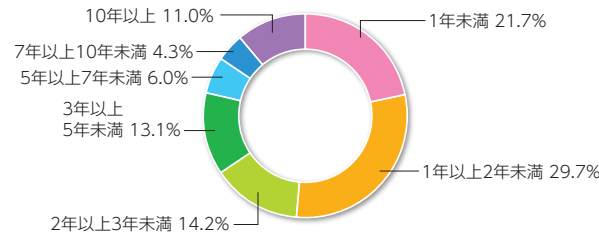
株主アンケート結果報告

2025年秋発行のアクモスハイウェイに同封の「株主さまアンケート」につきまして、多くのみなさまから貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

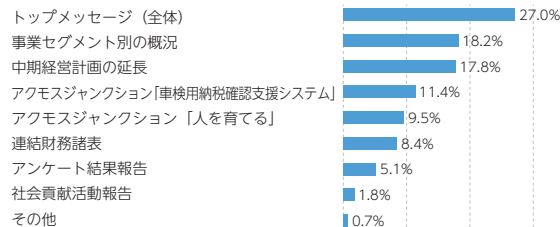
アンケート実施概要

実施期間：2025年9月25日～2025年10月31日
調査対象：2025年6月30日現在、100株（1単元）
以上を保有する株主さま 7,905名
回答者数：476名（回答率6.0%）

Q1 ▶▶▶ 当社の株式の保有期間



Q3 ▶▶▶ 前回の「アクモスハイウェイ」で興味をもたれた記事をお選びください（複数回答可）



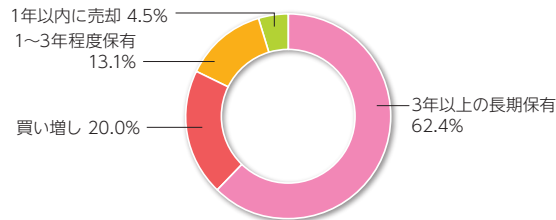
社会地域活動報告

茨城県では、2019年に全国初の都道府県対抗eスポーツ大会を開催した実績を活かし、産学官が連携してeスポーツに取り組む土壌づくりを進めています。さらに、ビジネスや地域づくりなどへのeスポーツの活用を促すことで、新たなeスポーツ産業の創造と地域活性化を目指す「いばらきeスポーツ産業創造プロジェクト」を展開しています。

アクモスでは、2025年11月に「いばらきeスポーツリーグ」、2026年2月に「IBARAKI GAMING DAY 2026」に有志社員が参加しました。さまざまな企業や学生との交流戦を通じてeスポーツの持つ可能性を実感しており、今後は社内へのさらなる普及を図るとともに、こうした活動を通じて地域社会との繋がりをより深めていきたいと考えています。



Q2 ▶▶▶ 今後の当社株式の保有についての方針をお聞かせください



株主さまからのご意見

- ・中計達成に向けての活動に期待しています。（50代男性）
- ・地球環境の変化も多く、今まで以上に防災システム等への取り組みに更なる発展を期待します。（70代女性）
- ・社員数もかなり増えているようですが、更なる発展・成長への投資ですので、思い切って経営されてください。（70代男性）

会社概要 / 株式の状況

■ 会社の概況（2026年6月30日現在）

商号 アクモス株式会社
設立 1991年8月23日
資本金 6億9,325万円
社員数 連結546名、単体320名
主な事業
・ITソリューション
SI・ソフトウェア開発
消防防災ソリューション
GISソリューション
・ITインフラ
IT基盤・ネットワーク構築
クラウド関連サービス
・ITサービス
第三者保守サービス
病院情報システム維持管理
サーベイ・アンケート
ビジネスプロセス アウトソーシング

■ 役員の状況（2026年9月25日現在）

代表取締役会長 兼 CEO 飯 島 秀 幸
代表取締役社長 兼 COO 清 川 明 宏
取締役副社長 兼 CTO 深 作 耕 一
社外取締役 小 竹 由 紀
社外取締役（常勤監査等委員） 西 山 達 男
社外取締役（監査等委員） 板 垣 雄 士
社外取締役（監査等委員） 松 尾 恭 志
取締役（監査等委員） 金 子 登志雄

※第35回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

■ 主な事業所

本社 〒105-0001
東京都港区虎ノ門一丁目21番19号
東急虎ノ門ビル8F
TEL：03-5539-8800
茨城本部 〒310-0015
茨城県水戸市宮町一丁目2番4号
マイムビル10F
TEL：029-291-3410
茨城開発センター 〒319-1112
茨城県那珂郡東海村村松2713番地7
TEL：029-270-5555
つくばオフィス 〒300-0847
茨城県土浦市卸町一丁目1番1号
関鉄つくばビル2F
TEL：029-834-3391
消防防災オフィス 〒310-0021
茨城県水戸市南町三丁目4番57号
水戸セントラルビル1F
TEL：029-307-9860

■ 株式の状況（2026年6月30日現在）

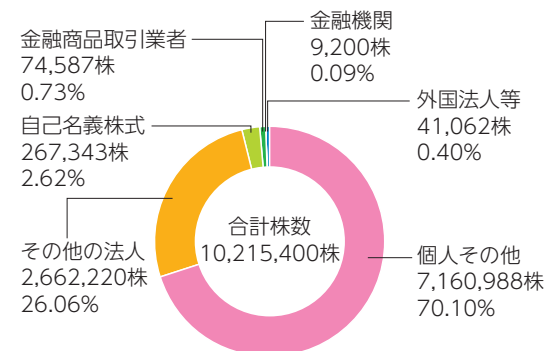
発行可能株式総数 32,300,000 株
発行済株式総数 10,215,400 株
議決権を有する株主数 7,733 名

上位10名の株主の状況

株主名	持株数（株）
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	2,470,000
光通信KK投資事業有限責任組合	639,200
アクモスグループ社員持株会	404,237
飯島 秀幸	303,400
UH Partners 2 投資事業有限責任組合	209,300
光通信株式会社	102,100
金子 登志雄	96,000
外池 榮一郎	81,000
佐藤 博通	63,600
新居 紀孝	57,400

※自己株式を除く発行済株式総数の上位10名の株主を記載しております。

所有者別株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月下旬
公告方法	電子公告 https://www.acmos.co.jp/ir/brief_note.html (電子公告により行うことが事故その他やむをえない事情によりできない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。)
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先※	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電 話：0120-232-711(通話料無料) 郵送先： 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

- 株券の電子化に伴い、株主様の住所変更、その他の各種お手続きについては、原則として、証券取引口座を開設されている証券会社等で承ることになっております。
- 特別口座に記録された株式の各種お手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部にお問い合わせください。



本社
〒105-0001
東京都港区虎ノ門一丁目21番19号
東急虎ノ門ビル8F
TEL：03-5539-8800
FAX：03-5539-8332



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に配慮した用紙、インク
を採用しています。



証券コード：6888



アクモス 株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目21番19号 東急虎ノ門ビル8F
TEL：03-5539-8800 FAX：03-5539-8332 <https://www.acmos.co.jp/>

編集・発行 アクモス株式会社 コーポレートマネジメント室
制作 宝印刷株式会社